

## 9月上旬

### リーフレタスの栽培

リーフレタスは冷涼な気候を好むが、玉レタスに比べると耐暑、耐寒性がかなり強い。生育適温は、15～20℃が最も良いので栽培の時期を合わせる。酸性土壌を嫌うので、土の酸度を6.5程度に中和しておく。種まきは直接、畑にまくよりもポットあるいはセルトレイに4～5粒播いて育苗するのがよい。

発芽には光が必要とする好光性種子なので土はごく薄くかぶせ、その上に新聞紙でおおいます。3～4日で発芽しますので新聞紙を除去し徒長しないように気をつける。本葉が1枚のころ生育の悪いものや形の悪いものを間引きよいものを2本程度、適当な間隔を取って残します。

その後本葉が2～3枚になったら2回目の間引きをして生育の良い方の苗を残し、日当たりの良い場所でしっかりとした苗に育てます。本葉4～5のころに畑に植え付ける。

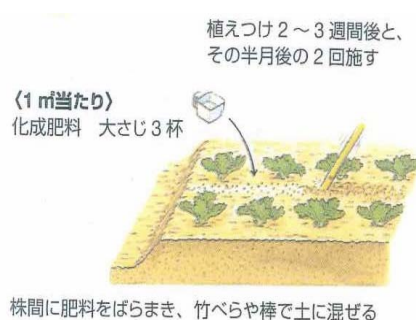
元肥としては、1㎡当たり100gぐらいの低度化成をいれ良く土とまでうね幅120cmのうねにする。1うね5条植で株間20cmに植え付け乾燥すると良いレタスが出来ないので敷き草やマルチをする。

中のほうの葉が内側に巻き始めたら収穫適期です。外側の葉から順次かき取りながら収穫すると、長期間収穫することができます。

#### (育苗)



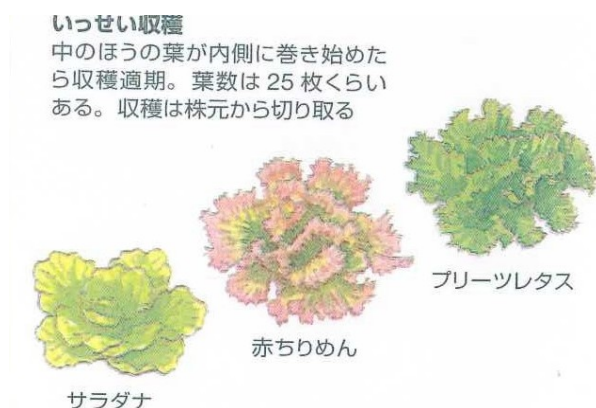
#### (追肥)



#### (収穫)



#### (収穫)



# 9月中旬

## ホウレンソウの栽培

### 1 作型と品種

(○播種 □収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
秋まき									○-----○-----				アトラス、リード、ソロモン 次郎丸

### 2 栽培上の注意点

- ① 生育の適温は15～20℃で、やや低い気温を好む。10℃前後までは良く生育する。
- ② 土質は特に選ばないが、耕土が深く水はけの良い砂壤土が適する。
- ③ 酸性土壌に極めて弱く、PH5.2以下では生育不良になるため、石灰質の土壌改良資材を施し矯正する。PH6～7がよい。
- ④ 品種は、葉の切れ込みが深く根ぎわの赤い東洋種と、葉が厚く丸みのある西洋種、及びその雑種がある。秋まきは東洋種と雑種が主に利用されている。
- ⑤ 日が長くなると、とう立ちする。とう立ちは東洋種よりも西洋種の方が遅い。

### 3 うねづくり・本田肥料

種まきの10日前に、完熟堆肥3kg/m<sup>2</sup>とセルカ150g/m<sup>2</sup>、元肥として化成肥料(14・10・10)80～100g/m<sup>2</sup>、総合ミネラル補給肥料40g/m<sup>2</sup>を全面に施し、耕耘後、畝幅80～100cmのうねをつくり、2～3条まきにする。

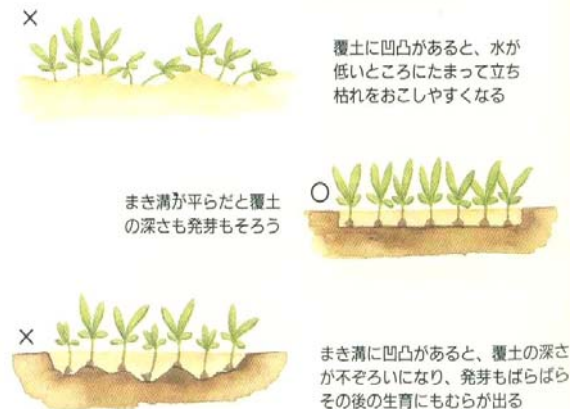
### 4 たねまき・間引き

タネの量は、20m<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>程で、まき方には、目出しまきとからまきがある。

秋～春まきはからまきする。

最近では、コーティング種子が中心であり、そのまま播種すればよい。

間引きは、子葉が開ききった頃、込みすぎたところや発芽遅れ、徒長株を間引く。本葉が1枚のところに2～3cmの株間に間引く。本葉4～5枚頃、株間を4～5cmにする。



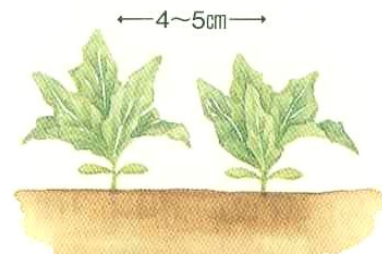
### 5 追肥

追肥は、本葉1枚目の間引き後、条間に野菜専用化成(15・15・10)30g/m<sup>2</sup>を、本葉4～5枚のころの間引き後、前回と同様に追肥する。



### 6 収穫

収穫は、草丈が20cmの時に遅れないように行う。



# 9月下旬

## ミズナの栽培

### 1 作型と品種

(○播種 □収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
秋まき	□	□	□	□					○	-----	○	-----	白茎千筋京水菜、九条 壬生菜、晩生壬生菜

### 2 栽培上の注意点

- ① 京菜とも呼ばれ、日本独特の漬け菜として栽培されていた。
- ② しゃきしゃきした歯切れのよさと煮くずれしないため、浅漬けや鍋物、煮物などに利用。
- ③ 最近では、サラダやトッピングにと生食として人気が高い。
- ④ 栽培の起源は京都である。
- ⑤ 小株ものは適地の幅が広く、どこでも作れますが、いずれも元肥に良質の堆肥を十分施し、有機質肥料を多めに追肥し、肥料切れをさせないこと。

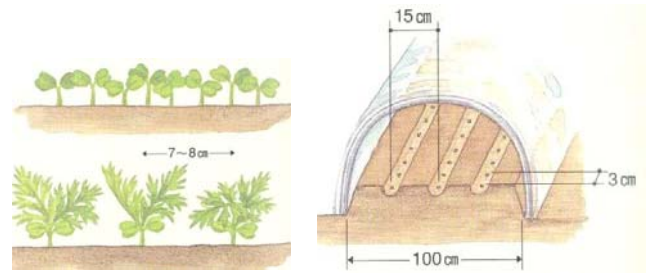
### 3 うねづくり・本田肥料

種まきの10日前に、完熟堆肥3kg/m<sup>2</sup>とセルカ150g/m<sup>2</sup>、元肥として有機化成肥料(10・6・10)150g/m<sup>2</sup>、総合ミネラル補給肥料40g/m<sup>2</sup>を全面に施し、耕耘後、畝幅80～100cmのうねをつくり、2～3条まきにする。

### 4 たねまき・間引き

まき溝をつけて3cmくらいの間隔にまく。薄く土をかけ、不織布でトンネル掛けにする。

間引きは、子葉が開ききった頃、込みすぎたところや発芽遅れ、徒長株を間引く。本葉2枚のころ株間7～8cmに間引く。



### 5 追肥

追肥は、草丈15～17cmくらい伸びたころ、株のまわりにとろどころに肥料をまき、土と混ぜる。野菜専用化成(15・15・10)30g/m<sup>2</sup>を、また、葉が重なり始めたころうねの両側に追肥し、通路の土を和らげながら畝に土寄せする。

### 6 収穫

収穫は、株が大きく育ったら、逐次株元から切り取り収穫する。

若いとき収穫、あるいは葉だけを一部摘み取って収穫し、サラダやトッピングとして食べる。

